



歴史を現代に生かす



柏原 利武 さん(85)
新麴屋

「かるかや市」の日は、季節に合わせた武者絵を飾り、屏風展をしとるよ。新潟県村上市の「屏風まつり」のように観光客を増やしていきたいかね。

わが家の屋号は新麴屋。家にはロシア帝国に輸出していた固形紅茶や終戦前の昭和18年の世界地図、和ろうそくの原料などもあって、ぜひ見てほしい。和ろうそく作り体験もできるよ。伝統を守りながら、この地の歴史を生かしていくのが大事。昔、小川商人と呼ばれていた頃の町らしさをね。

子どもたちの思い出になるふるさと

訪れた人が楽しんでもらう場所になれば、この商店街に出店する人も増えるだろうね。ここには体験プログラムもあるし、知ってもらって、輪が広がれば、ここに来てもらえるきっかけになると思っているよ。

若い人の力を借りて、広がりが増えていく。私も自分の役目を果たしながら、荻萱会のメンバーや地域の人たちと力と合わせて、にぎわいにつなげたいと考えている。

年間を通じて楽しいことがあれば、子どもの記憶にも残るよね。

会では毎回意見を出し合いながら、継続していくことが大事だと思っているよ。



山口 義則 さん(75)
山口カサヤ

受け継ぐことの大切さ

益城町から移り住みました。朝は海東地区にある地元農産物を使った商品を手作りする施設「文殊のちえ」で働き、午後からは那須さんが「ADDRESS」に登録している部屋の「家守」をしています。



大池 早代 さん(29)
文殊のちえ&「家守」

すでに予約も入り出しているの、体験プログラムやおいしい食事どころを早く覚えて、町の魅力を紹介できるようになりたいですね。

大切な文化など、受け継ぐべきモノを守っていききたいです。



「かるかや市」では手作りのまんじゅうなどが並ぶ

体験からつながる

この商店街が、人とのつながりや出会いの場になるといいね。会のメンバーにはそれぞれの思いがあって、それぞれがつながって、カタチになればいい。この町に合ったサイズ感でやっているよ。

蜂蜜しほり体験プログラムをやっているのも、地域の役に立ちたいと思っているから。

ここが、ほっこりできたり、ぶらっと遊びに行きたくなった、住んでみたいと思ってくれる場所になったら、もっとうれしいね。



二ホンミツバチの蜜で蜂蜜づくり



平川 晃 さん(64)
体験のまちづくり会長

感謝と恩返し

富士田 シゲ子 さん(85)
風の館 塩屋

荻萱会はこの町大好き人間の集まり。みんな地域のことを思っている。私も先代たちが築いてきたものを残したい。塩屋の修復は人に助けられてできたもの。隣人も手助けしてくれた。これが隣、隣とできていけば、また若い人も来てくれる町になって、昔のカタチを取り戻していける。会も



普段は手作りの田舎料理で食文化を発信

若い人たちが地域のために協力を惜しまない。塩屋がみんなの心のヨリドコロになればという一心。町のために、なんとか残したい。これは、今まででもらった恩返し。これが宇城市全体にも広がればと思ってる。

建物を生かしたい

森田 加代子 さん(68)
風の館 塩屋

子どもの頃は塩屋の土間を行ったり来たり。この辺りは庭でした。塩屋をみんなのヨリドコロとして使ってほしいから、知恵を出しながら、建物を生かそうと試みています。情報発信がうまく、利用者が増えると考え、撮影会なども試験的に始めました。時代を先取りする若者が、独自の世界観でこの建物の

良さを世界に発信してくれるんです。クラウドファンディングで2階の修復を、とも考えています。これらは、若い人の力を借りてやっていること。世代を超えて協力することで成り立っています。ここを利用して、この町を持続可能にしていきたいと思います。この会はいつでも、一生懸命なんです。



玄関の格子戸を開けると、箱庭の絵になる風景

できることから始めよう

みんなで商店街再生を学ぼうと、油津商店街の視察に行き、できることから始めようと呼び掛けました。今は空き店舗を埋めることを目的に、無理のないスピード感でやっています。みんながやれることを応援し、積み重ねることが大事だと思います。

補助金に頼らない「まちづくり」。1歩踏み出すことが大変だから、その手伝いをしたい。一緒に汗をかくことが大切で、地元の人が動いて自分も汗をかく。みんなのやりたいことを一緒に楽しく考える。それが「まちづくり」につながっていると思っています。



千葉崎 達 さん(35)
宇城市役所 商工振興課